

④令和2年7月豪雨における 国道41号下呂市小坂町門坂地区災害の応急復旧工事

受賞機関 国土交通省 中部地方整備局 高山国道事務所

キーワード 早期復旧、鉄道事業者・河川管理者との連携

全建賞審査委員会の評価ポイント

令和2年7月豪雨により被災した国道41号とJR高山線の応急復旧事業。道路事業と鉄道事業の壁を越えて連携協働し、期間短縮とパフォーマンスの向上を達成した点や、出水期中であったが河川管理者と連携し施工ヤードを幅広く確保した点、復旧にスピード感の求められる手立てのモデルとして期待できる点が評価された。

1. はじめに

令和2年7月豪雨は全国各地に甚大な被害をもたらした。岐阜県飛騨地方でも記録的な豪雨となり、高山国道事務所が管理する国道41号岐阜県下呂市小坂町門坂地区では、飛騨川の水位上昇による洗掘により7月8日早朝に延長約500mに渡って道路が崩壊し通行不能となった。隣接するJR高山本線も、擁壁の基礎部が不安定となり運休し、生活や物流に多大な影響が及ぶ事態となった。

2. 事業の概要

応急復旧工事の着手と同時に、道路管理者、河川管理者、鉄道事業者及び関係自治体で構成する「国道41号・JR高山線復旧調整会議」を7月14日に設立し、交通インフラの早期復旧に向けた調整を開始した。

調整により、JR高山本線と並行する被災区間を優先的に復旧することで鉄道運行再開を図り、地域交通手段の早期回復を目指す方針とした。

工事工程の短縮を図るため緊急時の特例として軌道敷を工事作業員の移動経路として使用するほか、鉄道敷を利用して法面復旧作業の親綱を敷設するなど、鉄道事業者との連携により、被災からわずか16日経過後の7月23日からJR高山本線が運行再開し、地域交通手段の途絶を回避した。



JR高山本線並行被災区間の法面復旧作業

また、河川内工事は非出水期に施工するのが原則であるが、出水期ではあったが河川内に工事用道路を施工する計画を立案し、河川管理者の了解を得ることが出来た。

あわせて、県管理の河川護岸も被災したことから国道・河川護岸被災箇所において一連で瀬替えを実施して施工ヤードを幅広く確保し、応急復旧に必要な資材の相互貸与を行うなど、相互の綿密な調整により一連区間の早期復旧に向けた連携を図った。



河川内の施工ヤード確保

3. 事業の成果

8月17日に応急復旧が完成し、片側交互通行で交通開放を行った。発災からわずか40日という短期間で約500mの応急復旧工事を完成させる中で培った鉄道事業者・河川管理者との連携が2車線本復旧工事に継続して活かされており、高山国道事務所の他事業にも好影響を与えている。

本復旧に向けた設計、計画について河川管理者と合意を得たことにより、10月14日から本復旧工事を推進している。

4. おわりに

今回の復旧作業では着手早々再び降雨により河川が増水し構築した工事用道路が流されてしまうなど現場に重苦しい空気が漂うことも度々あった。しかし、昼夜休日を問わず懸命に作業を行う現場に地域住民の方々から暖かい応援のメッセージをたくさん頂いた。

この期待に応えるため、安全・安心な道路整備を更に進めるものである。

賛助会員 大日コンサルタント(株)、中央復建コンサルタンツ(株)